

いのちの授業【国語科】学習指導案

指導者 O・J

1. 本時の指導

(1) 題材 詩「電池が切れるまで」

(2) 目標 詩と文章を読んで思考を深め、思いを文章に豊かに表す。(国語科)

詩と文章によって「いきること」(家族)について深く考える。

(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学 習 活 動	主な発問()と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	詩「ぼくのゆめ」を読んで、おかれている状況や院内学級について知る。	この詩を読んで、作者について想像できることを発表しましょう。 ・まだ小さい子が作った。 ・足が不自由。 ・病院に入院中。 ・走れない。など・	・黒板に「ぼくのゆめ」を掲示する。(予想される反応) ・作者の子どもがおかれている状況と、院内学級について説明を加える。
展開	「電池が切れるまで」の中の詩、文章、家族や本人からのメッセージを読み、感想を書く。	これらの詩と文章を読んで、感じたことをプリントに書きましょう。 病気の治療の詩や注釈的な文章 ・長期的にいかに辛い治療を必要としているか、死を感じながら生きる恐怖などが感想に表れているか。 家族に関わる詩や注釈的な文章 ・家族の支えがどれだけ大きいか、家族もどれだけ苦しい思いをしているかなどが感想に表れているか。	・プリントの詩を配付する。 ・各自黙読が終了した頃を見はからって、教師が朗読する。 ・感想は、箇条書きでも良いことにし、なるべく多くの視点から感じたことを書くようにする。
まとめ	「電池が切れるまで」を読み、作者の思いを受け止め、感想を書く。	「電池が切れるまで」の詩、作者の状況とその後、家族からのメッセージを読み、この詩に込められた思いを考えましょう。 この詩を味わった感想や授業を通して感じたこと考えたことを書きましょう。	・黒板に詩を貼る。 本時の学習の理解の度合いを把握する発問。 ・時間を多めにとり、思考を深めさせる。 ・自分なりの言葉で「いのち・生きること・健康なことのありがたさ・家族の大切さ」などについて感じ取れたかを感想によって把握する。 ・数名に発表させる。
いのちの授業のまとめ	院内学級を経験したのち強く生きている人の現在を知り、いのちや、懸命に生きることについて深く考える。	死と向き合いながら病気と闘った人の生きる姿勢を通して、これからの自分の生き方を見つめ直しましょう。	・資料を配付し、黙読しながら終わる

(4) 評価 詩や文章から感じたことを自分の言葉でなるべく多面的に感想に表現することができたか。命の大切さと健康に生きることのありがたさを改めて再確認することができたか。

